



清水建設株式会社

サステナビリティボンド・フレームワーク

2023年1月

1 はじめに

1.1 当社の概要

1804年、清水喜助が江戸神田鍛冶町に大工業を開業したのが、当社の起源であります。以来、個人営業の時代が続きましたが、明治中期には近代建設業者としての基礎を確立し、現在に至っております。

当社は、1887年に相談役としてお迎えした渋沢栄一翁の教えである、道徳と経済の合一を旨とする「論語と算盤」を「社是」とし、この考え方を基に、当社が経営活動を通じて果たすべき社会的使命を「経営理念」として決めました。

社是

「論語と算盤」

経営理念

真摯な姿勢と絶えざる革新志向により
社会の期待を超える価値を創造し
持続可能な未来づくりに貢献する

1.2 ESG 経営

長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、世界は脱炭素化やデジタル化をめぐる議論や取り組みを加速させ、ニューノーマルな働き方を生み、時代の転換期に入りました。その一方で、今回のウクライナ危機はグローバルな政治経済に不安と動揺をもたらしています。こうした転換期における不透明さの中、当社グループが長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で掲げたレジリエント、インクルーシブ、サステナブルの3つの社会の実現を目指し、新しい価値をお客さまと社会にお届けするという使命は、ますますその重要性が増し、意義深いものになると考えています。当社は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」への取り組みを通じて、建設事業の枠を超えた不断の自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じて時代を先取りする価値を創造し、人々が豊かさや幸福を実感できる、持続可能な未来社会の実現に貢献することを目指します。

SHIMZ VISION 2030

Smart Innovation Company

スマートイノベーションカンパニー

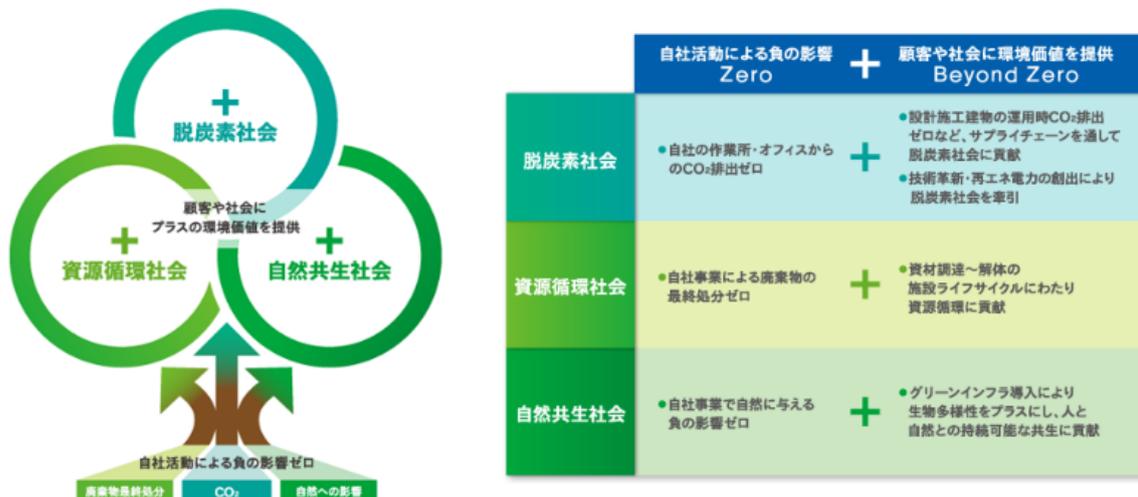
シミズグループは、建設事業の枠を超えた不断の自己変革と挑戦、
 多様なパートナーとの共創を通じて、
 時代を先取りする価値を創造(スマート イノベーション)し、
 人々が豊かさと幸福を実感できる、
 持続可能な未来社会の実現に貢献します。

SHIMZ Beyond Zero 2050

当社は、2021 年度、環境経営の司令塔として環境経営推進室を新設し、グループ環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」を策定しました。ビジョンでは、目指すべき持続可能な社会像を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの価値で表現し、当社グループの事業活動による環境への負の影響を低減するとともに、お客さまや社会にプラスとなる環境価値をお届けする「攻めの環境経営」を掲げ、技術開発に取り組んでいます。

SHIMZ Beyond Zero 2050

シミズグループが目指す持続可能な社会



環境に対するガバナンス

当社は、環境問題に関する方針および施策を審議する「SDGs・ESG 推進委員会」を設置しています。当委員会は社長を委員長に、SDGs・ESG 担当役員、安全環境担当役員および各事業担当役員などで構成され、気候関連リスクと機会の特定と評価の結果を審議するとともに、「エコロジー・ミッション 2030-2050」の達成度も管理しています。また、これらの審議の結果は取締役会に報告され、監督する体制となっています。さらに、環境経営推進室が、環境ビジョン「SHIMZ Beyond Zero 2050」の達成に向けた活動の管理を行っています。

1.3 マテリアリティ

当社は、社会や環境の持続可能性（サステナビリティ）を強く意識した事業活動を推進しています。持続可能な未来社会の実現に向けた重要課題として、以前より ESG 課題と ESG 重要管理指標を設定し、戦略的に事業活動を推進してきましたが、2022 年 5 月、最新の社会動向を踏まえて、当社として取り組むべきマテリアリティ（重要課題）を改めて特定しました。これにより、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」、中期経営計画（2019～2023 年）の達成、並びに企業価値向上と SDGs 達成への貢献を目指していきます。

	カテゴリ	マテリアリティ	関連するSDGs
事業を通じて社会に貢献できる マテリアリティ	 1. 安全・安心で レジリエントな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・強靱な社会基盤の構築 ・建物とインフラの長寿命化 	 
	 2. 健康・快適に暮らせる インクルーシブな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・快適なまちづくり ・Well-being 対応 	   
	 3. 地球環境に配慮した サステナブルな社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素 ・資源循環 ・自然共生（生物多様性の保全） ・環境汚染防止 	     
事業・経営基盤のための マテリアリティ	 4. 誠実なものづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生産性の向上 ・最適品質の確保 ・サプライチェーンの強化 ・労働安全衛生の徹底 	     
	 5. 時代を先取りする 新しい技術と価値の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術開発 ・新たなビジネスモデルの創出 	  
	 6. 次世代を担う人財の育成と 働きがいの追求	<ul style="list-style-type: none"> ・働きがいのある職場環境づくり ・ダイバーシティ&インクルージョン ・次世代を担う人財育成 ・人権の尊重 	     
	 7. 「論語と算盤」を基本に据えた 経営基盤の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・コンプライアンスの徹底 ・情報セキュリティの強化 	

1.4 スマートイノベーションカンパニーとサステナビリティボンド

当社は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」にて、3つのイノベーションの融合により、新たな価値を創造するスマートイノベーションカンパニーを目指しています。3つのイノベーションとは、①事業構造のイノベーション、②技術のイノベーション、③人財のイノベーションであり、建設事業の枠を超えた自己変革と挑戦、多様なパートナーとの共創を通じ、時代を先取りする価値を創造し、持続可能な未来社会の実現に貢献できる企業を「スマートイノベーションカンパニー」と定義しています。

このイノベーションを推進するための取り組みの一つとして、仕掛けとなる大規模イノベーションセンターの建設を計画しました。オープンイノベーションを促す機能を備えた本館、大型構造実験やロボット開発を行う研究施設、ものづくり体験型の研修施設、歴史資料展示施設などを含む延べ25,000m²の施設となります。歴史資料展示施設は、わが国建設業と当社の近現代の挑戦の歴史を紹介する企業ミュージアムとして整備します。また、当社が長きにわたり経営のご指導を仰いだ渋沢栄一翁の旧邸宅を青森県から移築し、歴史資料展示施設と併せて一般公開を予定しています。当社の社員を始め、ここに集う人たちが歴史から学び刺激を受けることにより新たなイノベーションにつながるものと考えています。これらの施設を活用することにより、オープンイノベーションや人財の育成、技術の伝承を着実に進め、経営基盤の確立・強化を図るとともに、企業価値の一層の向上を目指します。サステナビリティボンド発行により調達した資金を、当社の長期ビジョン実現に向けて活用していきたいと考えております。

<潮見イノベーションセンター（仮称）>

当社は、長期ビジョン「SHIMZ VISION 2030」で示した事業構造、技術、人財のイノベーションを強かに推進することを目的に、江東区潮見に取得した敷地において、本館、研究施設、研修施設等、総延床面積約25,000m²からなるイノベーションセンターを建設しており、2023年初夏に竣工、2024年から旧渋沢邸や歴史資料展示施設については一般公開の予定です。これらの施設を活用することにより、オープンイノベーションによる生産技術革新や先端技術開発、イノベーションやものづくり人財の育成、技術の伝承を着実に進め、経営基盤の確立・強化を図るとともに、企業価値の一層の向上を目指します。

建設地は、江東区潮見2丁目に所在する約37,000m²の土地で、JR京葉線「潮見駅」から徒歩1分、中央区京橋の本社から約6km、江東区の技術研究所・東京木工場から約3kmというロケーションに位置します。建設する施設群は、オープンイノベーションや情報発信拠点となる本館、建設ロボットや構造・材料などの生産革新を目指した研究施設、ものづくり体験型の研修施設と歴史資料展示施設で構成されます。これにともない、現行の技術研究所の一部の機能を新施設に移転し技術研究所の施設群を再整備します。

また、当社の二代目当主である清水喜助が手掛け、青森県六戸町に移築されていた旧渋沢邸を譲り受け当敷地内に再移築し、保存します。旧渋沢邸は、明治期に当社の相談役を務めた渋沢栄一翁の邸宅として明治11（1878）年に完成した木造建築です。唯一現存する二代清水喜助の建築作品であり、当社のDNAを後世に伝える文化遺産として保存するとともに、歴史資料展示施設と一体活用していく考えです。

イノベーションセンターの概要

所在地	江東区潮見2丁目8番地内
敷地面積	36,880m ² （11,156坪）
設計施工	清水建設株式会社
施設概要	5棟、総延床面積25,000m ² （予定）



<本館>

敷地の中心に位置する本館は、社会やお客様の真のニーズに立ち戻って事業構造を原点から考えていく施設です。これまでの組織や社内外、国内外の枠を超えて事業構造・技術・人財を創造する、オープンイノベーションのハブとなる施設です。また、社内外に向けた情報発信の拠点として、積極的な活用を図っていきます。

<研究施設>

研究施設には、技術研究所から大型構造実験や、材料実験といった生産系の研究機能を移転・拡充するとともに、当社が注力しているロボット専用の研究スペースを整備します。建設の可能性を「原点から探求する」施設であり、技術イノベーションの中核を担います。

<研修施設>

研修施設は、現在、江東区木場の東京木工場内にある、ものづくり研修センターの機能を移転するとともに、土木や設備の施工体験機能を加えて、さらに充実させます。ものづくりをその成り立ちから考え、心と技を磨くことができる「ものづくりの原点」であり、「技術と品質のシミズ」を支え続けるための人づくりの場とします。

<歴史資料展示施設>

歴史資料展示施設は、当社に伝わる多くの歴史的史料や模型、映像等により、建設業の近現代の歩みを紹介する企業ミュージアムとして整備します。当社が辿ってきた挑戦の歴史を振り返り、「進取の精神の原点」と、その継承の歩みを将来にわたって伝え続けます。

<旧渋沢邸>

旧渋沢邸は渋沢栄一翁の邸宅の一つであり、表座敷は二代当主の清水喜助が手掛けた現存する唯一の建築作品です。当初、深川福住町（現在の江東区永代）に建設され、その後、2度の移築を経て、1991年から青森県上北郡六戸町で保存されていたものを当社が2018年に取得。2019年2月に3度目の移築に向けた解体・収去工事に着手し、専門家による調査を行いながら、同年11月に解体を終了しました。収去した2万数千点にも及ぶ木材等の部材については、当社東京木工場（江東区木場）等で保管し、修繕を進めてきました。2020年1月に江東区から「旧渋沢家住宅（部材）」として文化財指定を受け、現在、再築工事に着手しております。2021年12月には上棟が完了いたしました。表座敷は渋沢翁が居間として使用した2階建ての木造和風建築になります。完成から140年以上が経過していますが、建築的特徴や細部に用いられた意匠及び工法がよく残っており、再築完了後には往時の姿で忠実に再現される予定です。時を超えて、創業の精神である誠実なものづくりと顧客第一、そして社是である「論語と算盤」を反映する当社の原点の象徴であり、当社のDNAを後世に伝える文化遺産として保存・活用していきます。



2 サステナビリティボンド・フレームワーク

本フレームワークは、国際資本市場協会（ICMA）が定めるグリーンボンド原則 2021（GBP）、ソーシャルボンド原則（SBP）2021、サステナビリティボンドガイドライン 2021、環境省のグリーンボンドガイドライン（2022 年版）、金融庁ソーシャルボンドガイドライン 2021 に適合しており、以下の 4 つの柱について定めています。

- 1 調達資金の使途
- 2 プロジェクトの評価と選定のプロセス
- 3 調達資金の管理
- 4 レポーティング

2.1 調達資金の使途

本フレームワークに則り発行する債券総額と同額が新規ファイナンスまたはリファイナンスとして、新規または既存の適格プロジェクトに充当されます。なお、既存プロジェクトへの充当の場合は、発行から遡って 2 年以内に開始、または適格性が確認されたものとします。

適格プロジェクトは、当社及び当社グループ会社により実施される以下の適格クライテリアを満たす設備投資や運転資金を指します。

適格プロジェクトが以下のクライテリアの①グリーンカテゴリーのみに該当する場合はグリーンボンド、②グリーンカテゴリーかついずれかのソーシャルカテゴリーに該当する場合はサステナビリティボンドとして発行することができます。

事業区分	ICMA 事業カテゴリー	適格クライテリア	SDGs
サステナビリティビルディング	<p><グリーン> グリーンビルディング</p>	<p>下記のいずれかのグリーンビルディング認証を取得した建物の建設、修繕、取得等にかかる費用</p> <ul style="list-style-type: none"> LEED-BD+C (Building Design and Construction) 、LEED-O+M (Building Operations and Maintenance) 認証 : Silver、Gold、Platinum CASBEE 建築 (新築、既存、改修) 、CASBEE 不動産認証 : B+ランク、A ランク、S ランク BELS : 3 つ星、4 つ星、5 つ星 DBJ Green Building 認証 : 3 つ星、4 つ星、5 つ星 	 
	<p><ソーシャル> 手頃な価格の基本的インフラ設備 (防災・減災対策)</p> <p>対象となる人々 : 自然災害の罹災者を含むその他弱者グループ</p>	<p>地震や台風などの自然災害の発生時に「安全・安心」を提供する拠点機能を担う施設や装備に関する投資や出費</p> <p><事業例></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 自治体より津波・高潮時の一時避難場所に指定された施設・建物 ✓ 避難所レベルの耐震性能を備えた施設・建物 ✓ 先進的な火災検知・消火技術を備えた施設 	 
	<p><ソーシャル> 社会経済的向上とエンパワーメント (バリアフリーの推進)</p> <p>対象となる人々 : 障がい者、高齢者、重労働・危険作業に従事する労働者</p>	<p>今後の人手不足対策のための省人化・自動化を推進するロボットや高齢者・障がい者等の移動に困難を抱える人々の移動を容易にするための建物のバリアフリー設備の導入・整備にかかる投資や費用</p>	

2.2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

グリーン/サステナビリティボンドの調達資金が充当される適格プロジェクトは、財務部と社内関係部署との協議により適格クライテリアに合わせて特定し、対象事業候補とした事業についてグリーン/サステナビリティ・プロジェクトとして選定します。グリーン/サステナビリティ・プロジェクトの選定の結果については財務担当役員が承認します。

2.3 調達資金の管理

当社財務部にて、適格プロジェクトの予算と実際の支出を追跡管理する内部管理システムを用意し、本フレームワークにて発行されたグリーン/サステナビリティボンドの発行額と同額が適格プロジェクトのいずれかに充当されるよう、償還までの間、四半期毎に内部管理システムを用いて、追跡、管理します。また、調達資金の未充当期間が発生する場合は、当社が未充当額と等しい額を現金及び現金同等物にて管理します。何等かの理由で充当先のプロジェクトが適格クライテリアを満たさなくなった場合や売却された場合は、適格クライテリアを満たす別のプロジェクトに手取金を充当することとします。

2.4 レポートニング

2.4.1 資金充当レポートニング

当社は下記の内容について、調達資金が充当されるまでの間、適格プロジェクト別に債券単位にて下記の調達資金の充当状況について年次でレポートニングを行い、当社ウェブサイト上にて開示します。

なお、調達資金の充当計画に大きな変更が生じた場合や、調達資金の金額が充当された後に大きな資金状況の変化が生じた場合は、適時に開示します。

- 適格プロジェクトへの充当額と未充当額
- 未充当額がある場合は、充当予定時期および未充当期間の運用方法
- 新規ファイナンスとリファイナンスの割合

2.4.2 インパクトレポートニング

当社は下記の内容について、グリーン/サステナビリティボンドの発行残高がある限り、適格プロジェクト単位にて、下記の環境・社会改善効果について実務上可能な範囲で年次にてレポートニングを行い、当社ウェブサイト上にて開示します。

事業区分	ICMA 事業カテゴリー	レポートニング項目		
		アウトプット	アウトカム	インパクト
サステナビリティビルディング	<グリーン> グリーンビルディング	<ul style="list-style-type: none"> • 建物概要と取得したグリーンビルディング認証のレベル • 電力消費削減量 • ガス消費削減量 • 一次エネルギー消費削減量 • 二酸化炭素排出削減量 		
	<ソーシャル> 手頃な価格の基本的インフラ設備 (防災・減災対策)	<ul style="list-style-type: none"> • 防災・減災に関する導入・投資設備の概要 	<ul style="list-style-type: none"> • 津波・高潮時の収容可能人数 • 想定される耐震性能 	<ul style="list-style-type: none"> • 災害に強い社会の実現
	<ソーシャル> 社会経済的向上とエンパワーメント (バリアフリーの推進)	<ul style="list-style-type: none"> • バリアフリー設備の概要 	<ul style="list-style-type: none"> • 対象となる利用者の利用状況 	<ul style="list-style-type: none"> • 誰にでも利用できる施設・設備の提供